



小山田 剛 士
(黎明親和会)

タワーレをより充実した 屋内遊戯施設に

令和7年度中に方針案を作成

問 市民交流プラザ「タワーレ」のプレイルームを遊戯施設としてより充実させる考えは。

答 令和6年度に行った子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査において、子育て世代から「街なかに近い場所で駐車場がある施設を」という意見があることから、当施設が最も有力な施設であると認識しております。よって、第一にタワーレのプレイルームと親子ふれあいスペースの改修、さらには他のスペースの活用も視野に入れ検討するよう担当部署に指示しているところであり、財源や利用団体の調整等の課題を整理したうえで判断したいと考えています。また、屋内遊戯施設の早期開設のため、令和7年度中に整備に向けた方針案を作成することとしており、整備にあたってはニーズを捉え、専門事業者からも提案や助言をいただきながら子供の遊びの環境の充実に向け鋭意取り組んでいきます。

問 国立公園先端モデル事業におけるマスタープランの進捗状況は。

答 十和田八幡平国立公園の利用拠点である休屋・休平地区の面的な魅力向上を図るための基本計画として、環境省を中心に策定作業が進み、当初は令和6年度中の策定予定でしたが、サウンディング調査を行うなど、より実効性のある計画とするため、策定期間が令和7年10月に延期されたとの報告を受けています。

問 今後の市の取組は。

答 マスタープランの素案に掲げられたハード面・ソフト面のそれぞれの取組について、いずれも十和田湖畔地域の魅力向上や活性化に必要な施策であることから、地域住民や関係機関と協議を重ね、着実に取組を進めていきます。



今 泉 信 明
(立憲農民クラブ)

ごみ減量行動計画 今後の取組は

ごみ減量の意識と価値観を 共有していく

問 第5次十和田市ごみ減量行動計画の目的は。

答 令和6年度に策定した本計画では、資源を有効活用し、リサイクルを推進することによって環境への負荷を低減する循環型社会の実現に向けて、市民・事業者・行政の3者が連携し、ごみの減量、リサイクルの推進に取り組んでいます。

問 今後の市の取組は。

答 令和7年度は、新たに公共施設から排出される生ごみを回収し、バイオマス発電施設でリサイクルする事業に取り組んでおり、年間約44トンの生ごみの削減、約136万円のごみ処理にかかる経費の削減効果が見込まれています。さらなるごみの減量、リサイクルの推進には、市民や事業者の理解と協力が必要となることから、一層の周知とごみ減量に対する意識と価値観を共有していけるよう取り組んでいきます。

問 市内の外国人労働者数を把握しているか。

答 市内の数値は持ち合わせていませんが、当市を含む三沢公共職業安定所管内における外国人労働者数は、令和4年は663人、令和5年は812人、令和6年は956人となっており、年々増加傾向となっています。

問 外国人労働者に対し、市ではどのような支援を行っているか。

答 若年者等の市内企業への定着を図るため、資格や免許を取得するため従業員に研修や試験を受けさせる企業を支援する若年者等人材育成支援事業を実施しているほか、生活面の支援として、市ホームページに多言語生活情報のページを設け、英語・韓国語・中国語の簡体字・繁体字の4言語で生活に必要な情報を提供しており、今後はベトナム語を追加する予定です。